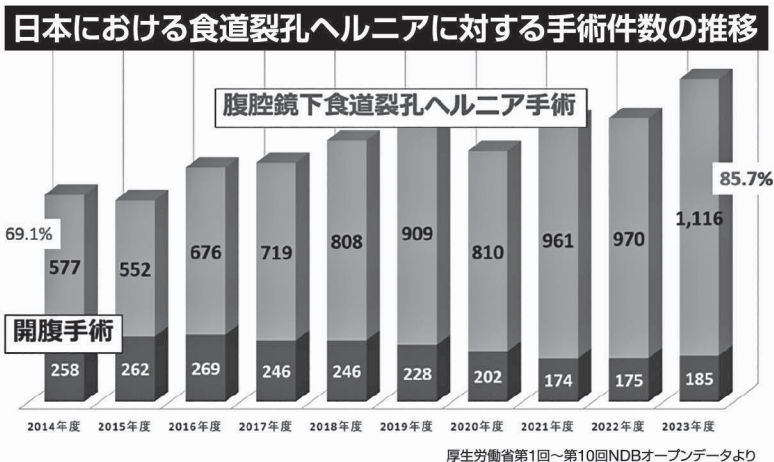


外科的治療で高齢の方の生活の改善を目指す

食道裂孔ヘルニアに 対する腹腔鏡手術

現在日本では高齢者人口が急速に増加しており、ご高齢の方に多い病気が増加してきています。その中のひとつが「食道裂孔ヘルニア」です。私たちの体の中では、胸とお腹は「横隔膜」という薄い筋肉の膜で仕切られています。この横隔膜には、食道が通るための「食道裂孔」という穴が開いています。加齢などさまざまな要因によつてこの穴がゆるみ、本来はお腹にあるべき胃の一部が、胸の方へ飛び出してしまふ病気が「食道裂孔ヘルニア」です。



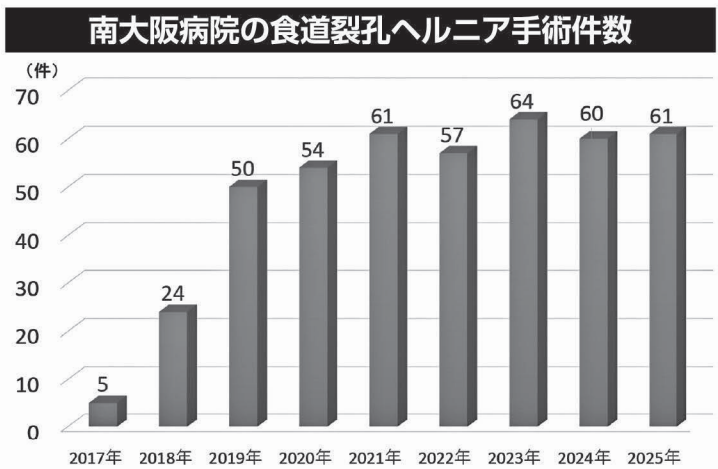
手術はお腹に5ミリ～1センチほどの小さな穴を数か所あけ、そこからカメラ（腹腔鏡）と専用の器具を入れて、モニター画面を見ながら行い（腹腔鏡手術）、胸にはみ出していた胃を正しい位置に戻します。しかし、食道裂孔ヘルニアは癌に対する手術と異なり日本では行う施設は少数です。

当院は、この食道裂孔ヘルニアに対応する施設です。この手術の目的は、単に病気を治すことではなく、「高齢者の方の生活の質を高めること」にあります。当院へは遠方から食道裂孔ヘルニアの治療を希望して来院される方がおられ、ご高齢の方でもお体の状態を医師がしっかり評価した上で、腹腔鏡手術を受けられる方がおられます。食道裂孔ヘルニアによる症状でお悩みの方はぜひお問い合わせください。



南大阪病院
外科統括部長 院長
竹村 雅至

食道裂孔ヘルニアの主な症状は、胃液が食道に逆流する逆流性食道炎です。その他には食後の胸の痛みや違和感、食べたものがつかえるなどがあります。特にご高齢の方の場合、嘔吐により誤嚥性肺炎を繰り返したり、夜眠れなくなったりと、「生活の質（QOL）」が大きく下がってしまふことも問題視されています。軽症であれば、胃酸を抑える薬で症状を和らげることができます。しかし、薬はあくまで「酸を弱める」だけで、「胃」が飛び出している」というズレを元に戻すことはできません。そのため、「薬を飲んでも一向によくならない」という場合には、根本的な解決を目指して手術が適応になります。



社会医療法人景岳会
南大阪病院

〒559-0012 大阪市住之江区東加賀屋1-18-18
TEL.06-6685-0221
[大阪メトロ四つ橋線「北加賀屋」駅から徒歩5分]

